

符彥純國物語

卷中編上

天保辛丑
孟春發販

四



歌川國貞



13
3223
27



へ13特
3223
27

邯鄲諸

國

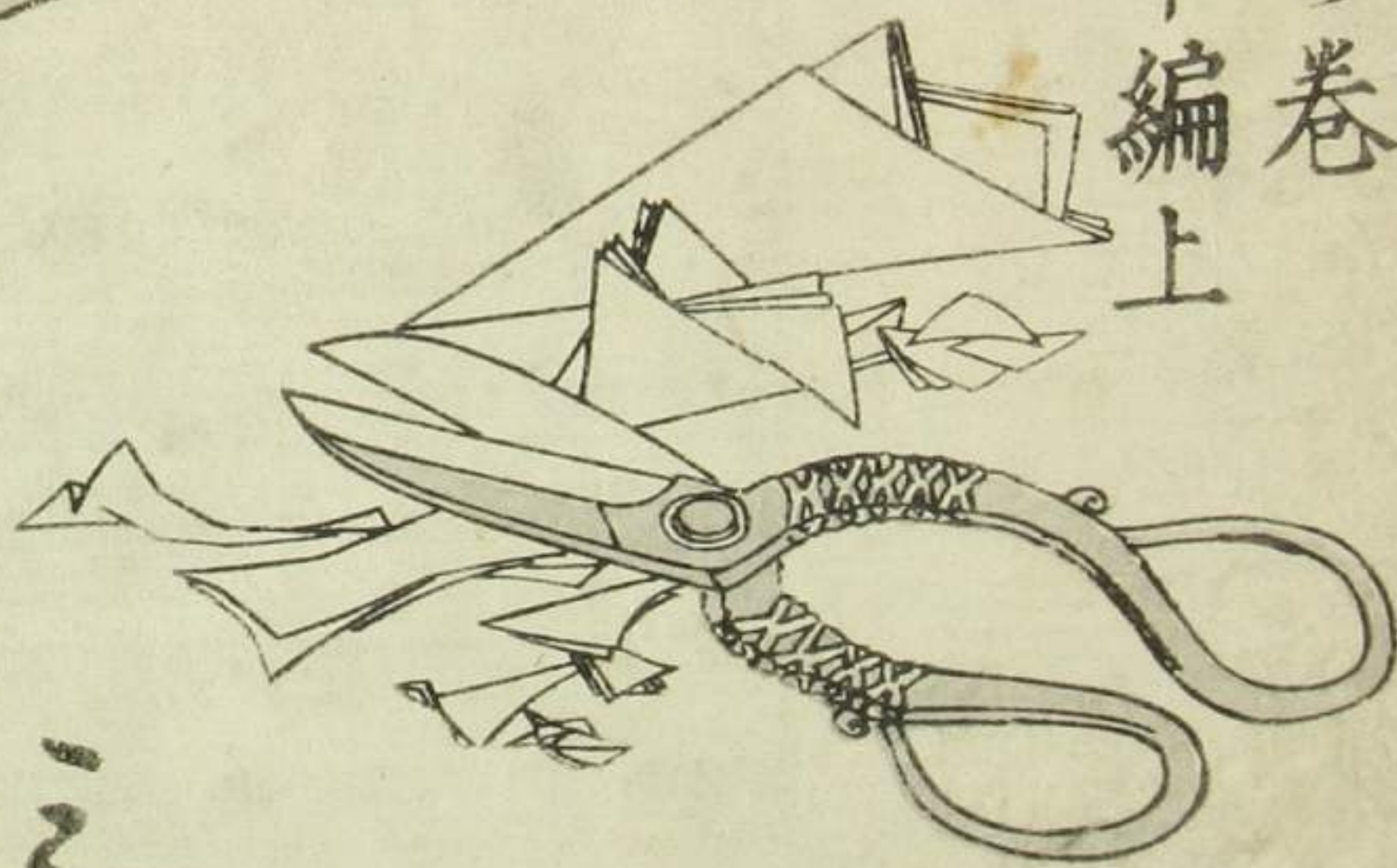
物語

種彦作

國貞画

播磨の巻

中編上



三

芳町親仁橋

榮久堂梓

重帷子曰丸ふこつ引
あまへの沙紋はむらうら

邯鄲諸國物語中編

鎗の権三の名の昔の曲子ふんえんこれどりぢれの時代いづきの
 るるを知りて門たあつが著者一浄瑠璃重帷子かの古き人
 名を假借て雲洲の街説を作りしるる是れは勢舞する話因
 洲丹洲も又ありそれ等の事を終りて一冊子の予が眼みられる
 標題下編の巻首録まそのるう記する堀江川波鼓の巻ト
 門たあつ作めて因幡の巻談とかのりるさそあゝの諸國物語の原
 來の空説るまば私に播磨の事とる一あまのが権三の茶道に
 傳受の一段のその重帷子をその依りてあまのが自害の波鼓を
 よるどころとまそその他の悉新の趣向をまうけ一あてあまのり
 も實の事いあらむ

天保辛丑正月

柳亭種彦記

新山峯相記の目

昔より佐用郡の

ある年の冬

あるつゆ

ある

法師

ありけるを

あふつれりの春ふ

それまわして

古書の峯相記との別本
りく延宝天和年間の
編るべし



柳亭まうま

け冊子の

説の

是非の

春哉村と

今

依用郡

る不

在

心ゆくまめりありあるありし時ありぬ
雉子の言つれられたるかのやう

深雪や雉子へやうをのふり

うくて年かへりむ月十四日のあき

あときてさうふりの法師の

あつらふとそそれり

あてあを

春哉の里と

あふの雉子の
今ふりるまで雪の
中やのやうの声まうと



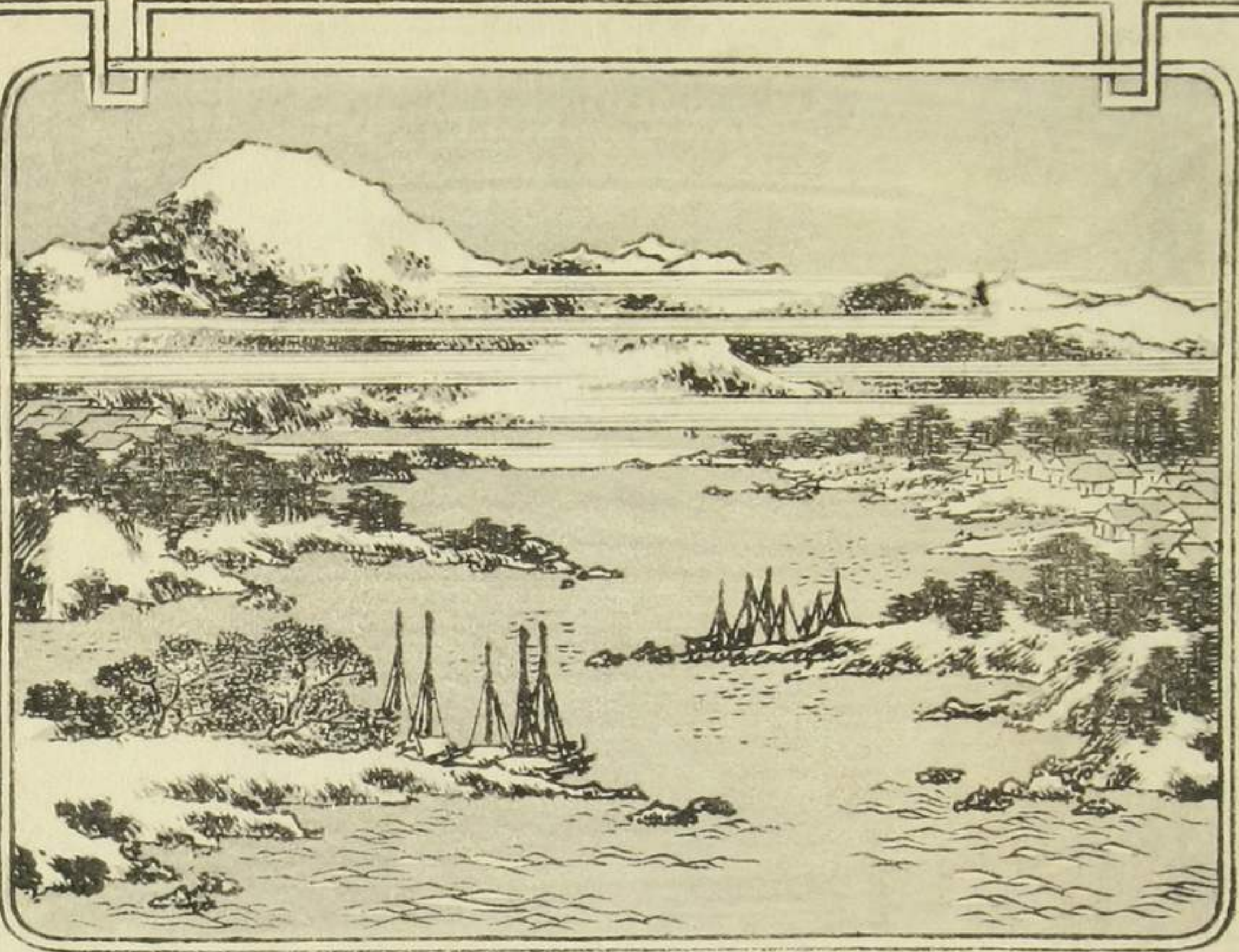
待美法園我語



香蝶樓畫

播磨の巻
中編下





邯鄲諸國物語

播磨の巻
中編下

柳亭種彦作

歌川國貞画

芳町 橋角 山本屋平吉板

上の... (Vertical text columns surrounding the illustration)

下の... (Vertical text columns surrounding the illustration)

耶 耶 諸 國 物 語

播磨の巻
下編上

しんしんしんしん
くふくふくふく
かかし
あやかし
あやかし
あやかし

諸國物語播磨之卷下編上冊

引用書目録

熊谷女編笠五冊 宝永三年印本 錦文流著

京縫鎖帷子冊 宝永三年刻 森東馬編

堀川波鼓

近松門左工門作 浄瑠璃堀江川波の鼓と 標題ある本いろいろ異同あり以上三種因州の甚談

乱萩二本鎗六冊 自一至三權之の語 姓名の異なる

鎗權三重帷子 門左工門作 浄瑠璃

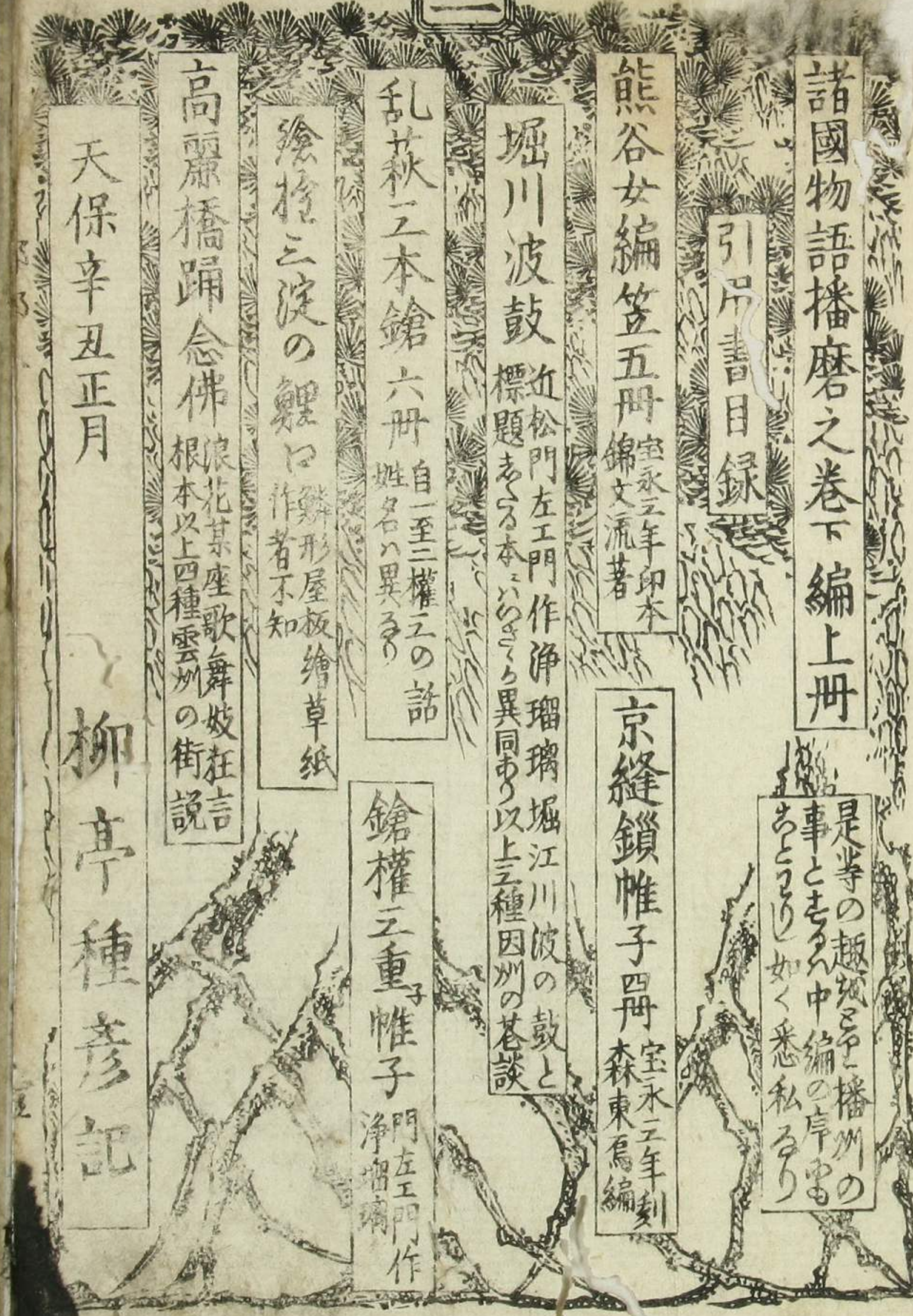
繪控三淀の鯉 鱗形屋板繪草紙 作者不知

高麗橋踊念佛

浪花某座歌舞妓狂言 根本以上四種雲州の街説

天保辛丑正月

柳亭種彦記





上ノ模一ノ
 鱗形屋版
 淀の鯉口ハ
 又々々々
 圖
 七十年
 余の
 程不
 草冊子の
 画風
 何々
 何々
 何々

船
 あり
 親を
 のぞく
 淵乃
 顔
 其角

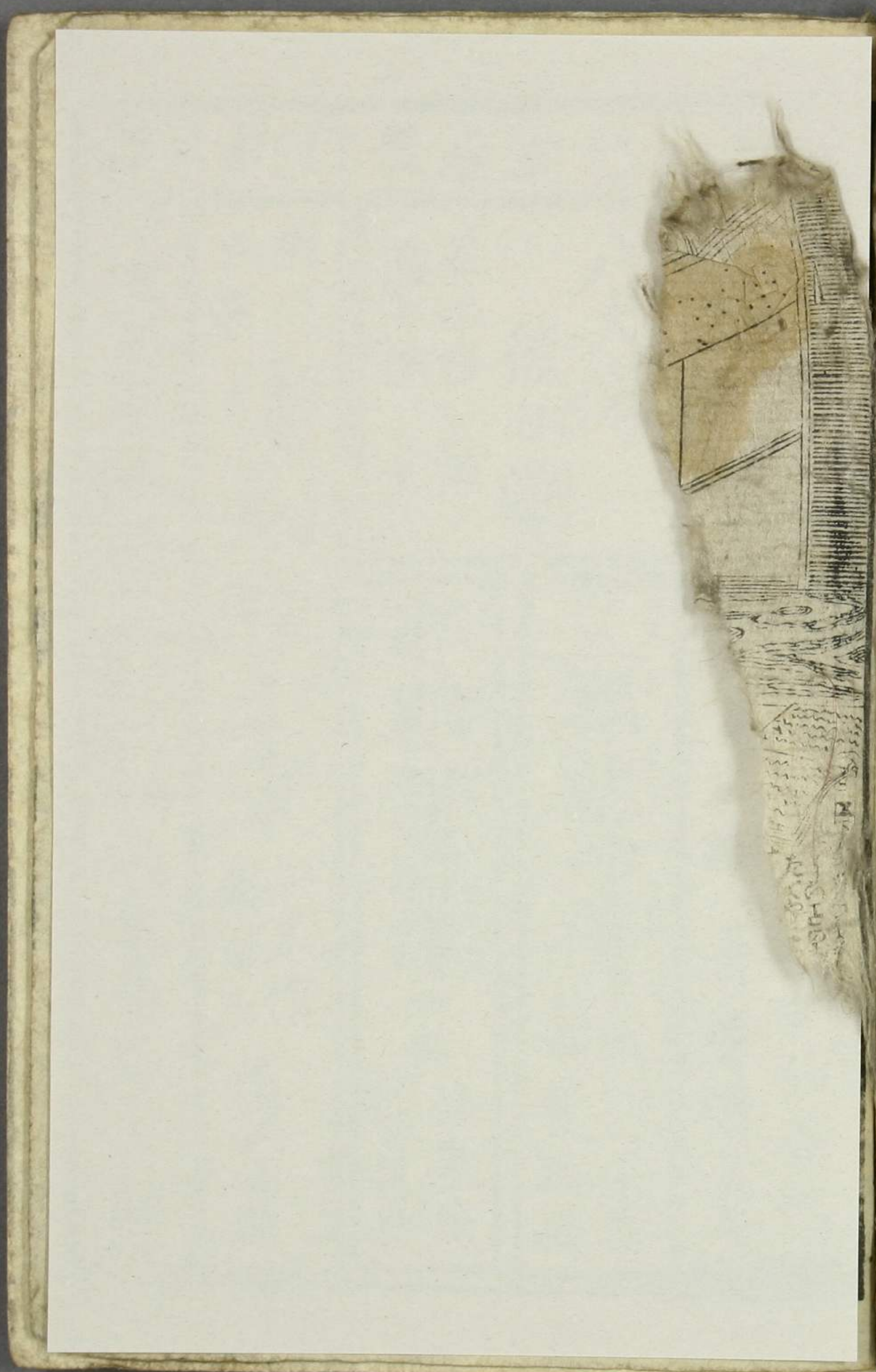


Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols.



Handwritten text in vertical columns, continuing the script or commentary from the left page. The text is dense and covers most of the page area.





安政四巳孟春發行新目錄

為世志字活曙

八編 九編 十編

笠亭仙果作
一壽齋國貞画

八犬傳

後日譚

春水作 五編
國芳画 七編

三都妖婦傳

三編 仙果作
四編 豊國画

邯鄲諸國譚

廿編 仙果作
國貞画

五教

情花廊

文庫

仙果作

近刻板

地本雙紙問屋

江戶芳町 親仁橋角

山本屋平吉板

